

インフルエンザ・ワクチンは本当に効かないのか？

10年ほど前に、医者でもないのがどこかの田舎の大学の学長になった。それは好きにすればいいが、TVで、「ワクチンは効かないから打ちません」とのたまった。……こいつは、ワクチンの効果の判定法を知らない。

ワクチンを打ったのに、インフルエンザに罹った、という人は、たしかにかなりの数で見られる。そして、この人たちは、二度とワクチンを打とうとしない。……これも間違いである。

ワクチンの効果の判定は、各個人がインフルエンザに罹るかどうかが、判定するものではない。

2シーズン前に、ワクチンが極端に品不足になり、打ちたくても打てなかった人が大量に出た。このシーズンには、A型とB型が同時に検出されたり、例年よりも患者数が多かった。印象として3割増しくらいの感じであった。

昨シーズンは、ワクチンの数も確保され、患者数は例年程度であったが、特筆すべき現象が起こった。B型インフルエンザが極端にすくなかったのである。

A型の突然変異は、流行期間中に起こってもふしぎはないが、B型はあまり大きな突然変異はないようで、B型に関しては、ワクチンが有効だったと言ってもいい。だから、今年のワクチンの中身のA型2種類の株は変更したが、B型2種類は、昨シーズンのままである。……それでもB型に罹る人はいる。……それでも著効なのである。

すなわち、ワクチンの効果の判定は、個人レベルではなく、多人数で判断するものである。だから、インフルエンザ患者が100万人であるものとするとき、これが数十万人とか10万人とか、1万人になったとき有効・著効と判定するものである。

胎児へのワクチンは、まったく問題がない、こともわかっているらしい。

2019.10.25.

新型コロナウイルス感染症のワクチン

世界中で先を争ってワクチンを開発している。米国では、臨床試験の前の段階で、安全性を確認する作業にはいっている。その他の国でも競争している。日本では、TVでは今にもできそうなことをいっていたが、まだ安全性の確認の段階らしい。このワクチンができて、しかも有効となると、一息つけるのであるが、いつになるか。おそらく早くても来年だろう、というのが大方の予想であるが、来年の初めか年末かによって、大きく考え方がかわる。まだ、大手を振ってマスクなしで人込みを闊歩する段階ではない。

2020.06.